たつおか

1950・9

No. 18 号

発行人　北澤小太郎
編集人　情報部
印刷所　龍共印刷株式會社
發行所　竜丘村公民館

村を訪れた林知事の人情味

九月十七日午前九時本村役場へ村長、助役、吏員、村議等の出迎をうけて到着、二階より水害の川路、龍江兩村を展望の后貴賓室へ座つた知事は、サイダーを一杯のんだだけで時間がないからと、取卷く縣議、地方事務所長らと共に去つた。

僅かに拾分間たゞその慌しい中で、木下書記が祖父の百三歳で逝いた老翁に贈られた知事の般若心經に心から御禮を述べた姿が注目された。

この日の床の間には表裝出來上つたお經が掛けられてあり香が供へられてあつた。

木下書記の祖父、木下竹四郎翁が百歳の長壽を越えた歳、來村した林知事に「壽」の文字を書いた扇面を贈つた事があつた。

その后年賀狀を百余歳の翁に送つて居たが、死去を知ると共に多忙な身の中で書いた般若心經が再び來村した知事の前に掲げられたのであつた。

田舎は變らない 五年目の疎開兒童語る

戰爭中開善寺へ来ていた、東京世田ヶ谷守山小學校學童は五年振りに村へ訪れて、想出を懐しみつゝ歸京したが、その后日物語を村人に紹介したい。

一つは歸京の中央線車中にて守山小學校觀覽席と云う掲示を取出して、車中の乘客にほゝえましい驚きを與えたがこれは燈籠流の夜特別席を作つて歡待したのをいつのまにかその場席の印を取つて記念に持ち歸つたもの。

次に東京へ歸つた學童は直ちに相談の上、関係學童で開善寺會を組織、機関誌として「ぎんなん」謄寫版刷りを發行した。

その卷頭の言葉として引卒者吉田きみ先生は書いて居る

—然し私達は私達の弟妹や子孫が再びこんな慘な學童疎開をさせられたり、あの恐しい爆撃をうけたり、最も悲慘な原爆の被害が再び地上を見舞うことのない事を心より念願します—（中略）—竜丘の方々とも常に暖かい心を交流して、共にこの地上に平和日本の樂かれてゆく事を祈りませう—

小學校の蛔虫驅除

小學校では保健行事の一つとして、昨年度に引續き去る七月二十七日全校一齊に蛔虫の驅除を實施した。費用は村予算の方から支出され、藥劑の方は校醫先生、國民健康保險組合、村内業者に相談の上決定致した。

驅虫の結果を學年別に見ると次の通りであつた。

學年	服用者數	排虫者數	%
一年	一三九	九九	七一、二
二年	一二三	八二	六二、一
三年	一二六	七六	六〇、三
四年	一二四	七六	六一、二
五年	一二八	五八	四五、三
六年	一一〇	六八	六一、八
計	七五〇	四五九	六一、二

充實したいよい子の學校圖書館

新教育は子供たち自から學ぶ自立自習の態度を重じて居るが、それにはどうしても學校圖書館の充實が先決問題である。

本村中學校圖書館は八八九冊、小學校圖書館は一九五〇冊、兩方合せると二八三九冊に達する。

貸出方法は全部兒童自から

『京都のぶゞ漬』

（木南寿子）

「まあぶゝ漬でも一パイおあがりやしておいきやす」

来客が歸らうと思つて立ち上りかゝると主人の方はぶゝ漬（お茶漬のこと）で以て一應は引とめるのである。かと言つていつも台所にぶゝ漬の用意がしてあるといふわけでは無く、御飯さえもこれから仕掛けて炊かねばならない場合も有る。でも大概のお客様はこのぶゝ漬を聞き流してお歸りになるから問題はない。

或る禪寺の和尚様がまだ雲水と呼ばれた修業中のころ歸りかけて玄関で下駄をはいてゐるうしろからこの「ぶゝ漬でもと言はれた。ぐつと來たので「それでは一パイいたゞきませう」と言つて又座敷に引かえしたら、主人側は驚ろいて色を失つたといふ。

「京都のぶゝ漬」といふ言葉はだから誠意の無い意味に使はれ、あの人は「京都のぶゝ漬だネ」と言はれゝばおよそその人柄の見当はつく。

でも京都の人が全部こうだと言ふのではない、誤解のない様に。

「信州のお茶」あれまあこんごは信洲かと思はないで下さい。私は決して信州のわる口を言ふのでは有りません。

有りのまゝのお話をしませう

一寸訪れた家で必ずする挨拶は、お茶をのんで行け、でありませう。そしてこの挨拶がない場合、何となくものたりない感じを覺えませう。

信州はそれほどお茶をのむ事が日常の生活に離する事の出來ぬ重要な部面を占めてゐるのです。

「まあ柴茶でも一パイおあがりて」と言つて懸命に引とめられると、それが急ぎの時でもつい斷りきれず、ずるゝ〳〵と上り込んで話に花を咲かすせまい山峡の社交場はいたるところお茶のあるところに開かれる。

集まつてお茶を樂しむといふ事は非常にいゝ習慣だと思ふ。しかしそれが方向をあやまると一寸困るのである。

「お茶でもお飲みて」といふ言葉が本當に意味を持つ場合は問題はない、しかしその言葉が一ペンの挨拶に過ぎず、内容のないものであつたら…

或る時東京から一時疎開して暮してゐるお嬢さんが、「お茶をのんで行け〳〵と言はれるんですけど、そのおばさんは庭先で仕事の手も休めないで言つてゐるんでしようおかしくつて、私急ぎますから又こんど。と言つて通つて来ました」と言つた事がある

「ではお邪魔します」と言つて上り込んだら、おそらく先のぶゝ漬と同じで、それから大急ぎでお湯をわかし始める事であらうと大笑ひした。

これに似たり寄つたりの事に出くわす事が折々有る。

信州人はいつの場合にもお茶を口に出さねばおれないのである。

親愛を表す事にはじまつたお茶が、京都のぶゝ漬式に一邊の内容のないお茶にまで發展して行つたとしたら、信州人はお茶を愛するのあまりお茶にこだわり、お茶にしばられてゐると言はれても仕方がない。

しかしこれは信州の人が全部こうだと言ふのではないくれ〳〵も誤解のない様に。

秋晴れに走る若人 陸上競技中部豫選開かる

九月二十三日松尾學校庭にて中部ブロック（松尾、鼎伊賀良、川路、三穂、竜丘）の陸上競技予選大會開催。秋晴れの好天に惠まれて各選手奮闘した。成績次の通り。

この予選會の中から來る十一月十二日開催の下伊那郡テリンピック大會に出場選手が決定される。

竜丘の代表は良く頑張つた競技の最后を飾る八百米リレーに於て、本村代表は第一位にゴールし、村の應援の人達に拍手を以つて迎へられた。

予選成績

男子百米（村別）（タイム）
①中田 伊賀良 一二、六
②今村 松尾 ③長谷川 伊賀良 ④古川 三穂

男子二百米
①杉山 松尾 二六秒五
②今村周已 竜丘 二五秒六
③中田 伊賀良 ④古川 三穂 ⑤長谷川 伊賀良

男子四百米
①横山弟 三穂 一〇、一五
②横山兄 三穂 ③下平 松尾 ④仲井 鼎 ⑤熊谷 伊賀良 ⑥長沼 竜丘

男子千五百米決勝 四分四〇、七四、四〇、八
①松澤 伊賀良 ②林 竜丘 ③横山弟 三穂 ④小林 竜丘 ⑤龜井 伊賀良 ⑥今村 三穂

男子一万米
松澤、長谷川 伊賀良村

男子巾跳
①伊藤 鼎 五、七〇 ②長谷川 伊賀良 五、六七 ③今村 松尾 ④鹽澤 竜丘 五、四一

男子高跳
①下平實 竜丘 一、六一 ②本島 竜丘 一、五六 ③田中 川路 ④松下 伊賀良

男子三段跳
①金田 鼎 一一、四七
②原田 竜丘 一一、三七
③片桐 松尾 ④小林 竜丘

男子砲丸投
①本島 竜丘 一〇米四〇
②伊藤 伊賀良 一〇、〇五
③田中松尾 ④福島伊賀良

男子円盤投
①中田 伊賀良 二一、九四
②熊谷 伊賀良 二一、七一
③松島 松尾 ④新井 伊賀良 ⑤本島 竜丘

リレー 竜丘一等
選手 今村周已、林、塚平 鹽澤 タイム二分五六秒

女子六〇米
①鈴木 伊賀良 ②伊藤 竜丘 ③古川 伊賀良

女子百米
①松澤 伊賀良 ②岡村 竜丘 ③平田 伊賀良 ④木下 松尾

女子巾跳
①原 竜丘 ②松澤 伊賀良 ③町田 伊賀良

女子高跳
①松枝 松尾 ②伊藤 伊賀良 ③原田 伊賀良 ④岡村 竜丘

女子砲丸
①伊藤 伊賀良 ②矢澤 伊賀良

陸上競技だけの總合得点では伊賀良第一位、竜丘第二位

卓球（鼎學校會場にて）

男子選手名
倉澤彦男、今村輝夫、原今朝男、小室和薫、吉澤君男

女子選手
澤柳みさ、伊藤弘子、中島幸子

卓球は男女共惜敗、個人では相当優秀な成績を示した人もあつた。

バスケット試合（會場伊賀良）
第一試合 竜丘 一七×一七 伊賀良 一二×一六
第二試合 川路〇鼎
第三試合 〇鼎×松尾
第四試合 鼎×〇伊賀良

結局伊賀良チームが優勝した

本村の選手二名試合当初に負傷者を出した。

選手は
下平稔、木下彦雄、中田美稔、前島廣美、前島七五郎 伊原弘、笹岡一雄、中島守一、下田馨、松尾先生、計十名

庭球（会場高松高校）
本村出場選手
四〇才以上 下田源六、吉澤俊一船 今村義光、牧内清志
女子 久保田千惠子、中田かなえ

優勝は四〇才以上、一般共に松尾、女子は中田嬢と、伊賀良の組合せで兩村の選手が一人宛組み優勝した。

排球 本村選手
澤柳よし子、折金久子、下平利子、小林敬、鹽澤波枝 下田節子、中平富美、下平加代子、木下ちか子、橋爪喜子、下平久 計拾壹名

成績は一位松尾、二位竜丘、三位伊賀良

中部ブロック野球松尾優勝

九月十六日朝八時より竜丘學校庭に於て、開催本村チームは敢闘したが惜敗した。

松尾（一一）×三穂（〇）
鼎（一一）×伊賀良（五）
松尾（八）×川路（〇）
鼎（二）×竜丘（一）
松尾（二）×鼎（一）

予告

拾月拾五日（日曜日）ごろ全村体育デー實施の予定、秋晴れの一日老若男女奮つて御參加下さい。（詳細は追て）

竜丘村公民館

各分館を廻つて「村民の集い」開かる

村公民館主催にて九月二十八日長野原、二十九日駄科、三十日桐林、十月二日上川路三日時又、各公民館にて次の主題を討論中心に集いを開く地方事務所廣報係り員が出席の予定。

が當番を定め、圖書整理を行つて居る。

村の豆ニュース

前館長放送

九月十九日朝のローカル放送、青年の時間に前公民館長木下右治氏は公民館と青年と題し竜丘の当時の公民館の經驗を語つた。

國民たすけあい 共同募金始まる

目標2500萬圓

みんなのまごころを不幸な人々へと赤い羽を胸にかざす運動は十月一日から三十日迄の一ヶ月間全縣一齊に開始。下伊那郡への募金目標は九十七万壹千円。募金方法は例年通り街頭と戸別訪問と、その他。

乳牛講習

九月十九日本村農協にて酪農組合は乳牛の飼育管理の講習會を開いてお乳の増産に努める事になつた。

繭の拔賣り防止對策

九月十九日農協では天龍社係り員天龍峡狩野巡査部長篠原巡査等出席して秋繭の全額供繭對策を協議した。

青年學院人事

新に囑託教管として九月より和泉壽美女史（和泉小學校長妻）が任命された。

たのしい會合を開く爲に

九月二十一日竜丘學校に於て農村文化協會長野支部の久保田豊子女史を講師に、村青年團文化部主催にてたのしいリクレーションの持ち方講習會、内容は歌唱指導と團体遊びの方法。

九月の公民館映畫

二十一日上川路公民館、夜學校、二十二日學校生徒、夜農協組にて開催。今度は火の用心の映画が入つて消防協會の通知に基き團長さんが赤いハツピ姿で消防の歴史を一席あいさつをして火災予防を強調した。

運動會について相談

九月二十一日學校ではPTA責任委員会を開き、十月七日開催の小中學校合同運動会について敬老會の接待方法、會場準備、出場種目を相談大玉送り、つな引各部リレー、玉送り等四種目に參加する。

紅葉とお寶物の展覽

開善寺では例に依り十月十日から十一月十日迄の一ヶ月間寶物の展覽會を以つて一般の參觀を希望する。

村民皆様へ御寄附御禮と報告

合計金七千二百九拾圓也右野球、排球大會の爲皆様から御寄附願つたのですが、お蔭にて大会が円滑に運んだことを深謝致します。右紙面を通じお禮申上ます。（竜丘連青）

九月の訪問記

長野縣農事試驗場分場二十五週年
農事普及展示會を觀て

第一會場（分場）

（伊東保直、木下彦男）

二十二日午後三時半第一會場到着。過去數回訪れた時の姿とは大分変り、取拂われた建物、建築中の材料の集積、大工のノミの音、その中を行くと大きな天幕を張り、色とりどりに各メーカーののぼり旗發動機、製粉製、製麺機實演の騒音、こゝが農機具の展示會場である。

展示會品は各メーカーにより製粉製、麺製縄、精米麦、水冷空冷エンヂン、モートル籾摺、脱穀、米撰、エンシレージカッター、犂、カルチベーター、耕耘、砕土、土入、除草、播種、噴霧機等々全般にわたつてゐる。

人が群れてゐる、そこはカルチベーターと廻轉式麥土入機の實演だ。土質や耕地面積により、能率に差違はあるがほしい農具である。前からあつたもので大分改良されてゐるが現在農家の使用してゐるものでも何か一部改造や、部品の取替で間に合ふのもあり、購入に當つては各自が買うのではなくて共同使用したいものだ。

松山式二段耕犂とは從來のものに更に小型な表土を起す犂を取りつけたもので、縣農下伊工場から持つて来てゐたぞの位深く起きるかと尋ねたら、この土地では八寸位との由。牛馬牽引に從来のものより加重がかゝるのではないかと云ふと「そんなことはない」と、價格は「三千百六十円」普通の高北式が二千六百円であつた。たしかに二段犂は砕土は良好だろうが、牽引に説明通り行くかどうか？

空冷式三五馬力エンヂンは容積重量等水冷式に比し使用運搬に便利に出來てゐる。

農家はもう稲刈りだ。昔年らの鎌で腰をかがめて刈らなくとも何か優良な刈取機でもあればと探して見たがあつたのは從来の鋸鎌だけで、この方面は試作研究の範圍を出ないのだらう。

犂、カルチベーターによる耕起、能率的な播種機、二、四Dの除草、粉末噴霧機と農業も進歩して来た。こゝに展示されてゐる優秀な農機具もそれを縦横に使用するには矢張り立地條件と経済を考へねばならない。

戰後耕作農家の地位の安定と、勞働の成果を公正に受取るため、農地改革が行われたこれは耕作農民に土地を解放し、農村の民主化の土台をつくる目的で一應達せられた、しかし日進月歩し合理化する他の産業に比べ百姓は苦勞の割に利益は少く、生活は豊にならない点は改善されてゐない。

進歩した農機具を使用しそこに余剰時間を生み、休息に慰安に、文化的生活に當て、百姓も人間としての當然の生活をするために又世界農業の一環として伍して行くには一刻も早く農地の交換分合と協同化の必要を痛感して今度は圃場へ向つた。

十五、六才の研究生が居たので吾々の今日の任務を話し圃場の説明を頼んだ。先づ第一に今回の二十五周年の催し熱、二、四D、秋落、新品種育成、豊凶、前後作関係等の試驗をしてゐるのだ。各試驗區には播種期、品種、施肥等方法が詳しく書いた立札がある。

二、四Dの成績では苗取後アンチ二、四Dに一晝夜浸し田植後二、四Dを撒布するのが一番よいそうだ。撒布時期は氣温水温により相違があるが、田植後二十五日目に四〇瓦施すのが一番安全で良結果を得たとの事。雑草は全滅してゐない、矢張り三年位續けることである。

生産力検査及新品種育成圃場の新品種としては愛知旭×畿内早生六九号及愛知旭×陸羽一三二号等で、今後の優良品種としては農林三十二、三十六号、東山五三号（農林四八号）糯では埼玉糯、不倒糯等稻熱病は一般に農林系統は弱く、耐病性として東山五三五四号が期待されると説明する。

新しい方法として畦立栽培があり、こんな立札に説明があつた。「これは田圃に高畦をつくり、その上に稲を植えて根本を空中に露出し、温度、酸度の供給をはかり、畦間のみ湛水する特殊栽培である。冷水掛りの水口、濕田、秋落田へ實施して有効である」と説明する。

場内を一周し場外へ出る、

予告

全村の皆さん、十一月初旬には秋の農藝品評會が開かれます。今から出品物の準備をして下さい。

竜丘村公民館
竜丘村農業協同組合
竜丘村經済改善委員會
竜丘村農業改良委員會
各種團体

そこには菜種、陸稲、大豆、特用作物等の圃場で大豆栽培は移植、主播、移植摘心、直播摘心と四區あり、移植摘心より直播摘心が一番成績が良いさうである。

特用作物としてはミブヨモギ、コンニヤク、エゴマ、ヒマ、麻、ヒマワリ、糸瓜、鑵詰用モロコシ等で、面積も少くもつぎこの方面の試驗と指導をのぞみたい。さて一應圃場を見たので引返して種藝部の事務室で多忙な身の松尾氏にいろ〳〵聞いて見た。この組織は庶務、種藝、園藝、化學、病虫害の各部と今回の擴充計画に畜産部があり。試驗場に畜産部の出来ることは他に少いとのこと。こゝは專ら技術的方面の研究と指導で経營、經済方面は農改委、協組等と連繋してゐるから関連性はあるのでと、今後稲作の重点は肥料事情から耐病多收性に重点を置き、外國系統を交配することが盛んになると思ふとのこと。

天龍沿岸では穗數型山間及濕地は穗重型がよい。稲橋で育成されてゐる品種が竜丘へぞん〳〵導入されてゐるのでその見解をたゞすと「收量の点は當場の奬勵品種に劣る。耐病性はたしかに強いが環境が違ふから中には弱いものがある（金南風、中生秀峰等）」と云はれた。

豊凶成績は稲熱病発生地帶を除き一般に平年作か、それよりよいのではないかとの話

最後に今回の催しの目的は云えば「設立二十五周年でもあり、一時廃止寸前のところ、中央からもその存置の必要を認められ、今回六百万円の豫算で擴充することになりこの擴充に当り農家の皆さんには大いに協力を頂いておるからその感謝と合せて主食一割増産、國内自給体制の叫ばれてゐる折柄ほんとうに試驗場を農家の方達が、俺達のものとして認識を新たにし、大いに利用して頂きたい」とその意義を強調された。

六時過ぎ忙しいのをと禮を述べ外へ出れば既に見學の人影はなく、十一月一杯には出來上ると云ふ本館、寄宿舎、畜産、病虫實驗の各建物を思ひ浮べ乍ら今度來る時をたのしみに去つた。

第二會場を訪ねて

（市田村中學校）

（高島隆一、岡村美文）

会場である中學校は眺望の廣い高台に位置して、木の香も新しく新築されたばかり。

展示會場の最初の室、種苗館は主として稲に関した物でその品種や本縣及郡水稲平均反当收量、統計等圖表にあらわされて一目瞭然だ、こゝでは、水稲の保温打裏苗代に関する展示が最も見學の人に注目される。その優秀な發芽率と、生育促進はこの苗代の特長である。第二室は麦の室で本縣奬勵品種が系統的に陳列してある。小麦農林二七号、同三九号、六六号、六八号、六九号、伊賀筑後オレゴン、大麦信農一号、備前早生、日麥細麦、會系四六号等の特性が明確にされていて、本年度麥作りを直前にひかえ大変參考となる。又土入の效果多收穫栽培の實績は本郡における栽培方法の欠点を明確に現し特に播巾と播種量の問題は實に見逃し難い、次は雑穀工藝作物の室だ、植木鉢に大豆、えんどう、落花生、各種菊等が植えられていて一寸きれいだが比較的平凡な爲か、こゝは皆早く通りすぎる。それでも落花生の栽培方法だけは一寸見學の人の歩を止める。

南側の校舎の最后の室が普及館だ、この室は主に四Hクラブの事が展示されている。これは老壮年者には割合理解も関心もうすいだろう。しかし特に農村青年に見捨て難いものだ、なぜなら、新しい構想によつて出発した農業改良普及事業は農村を民主化し、農民自らの手によつて農業及び生活の改善向上を圖るのがねらいであつて、これは、新しい「民主的且つ科學的に實踐して學ぶ」教育を受けた農村の次代を負うべき青少年の自ら求めて築き上げる積極的な意欲に期待するところが極めて大きいと云わねばならない。それを實踐にうつすのが四Hクラブだ。

アメリカにおいて素晴しい成果を收めている四Hクラブを範とする青少年クラブが全國各地に結成されているが、こゝにかゝげられたその實際活動についての資料、その他の統計等は少からず若い篤農家の血を沸かすものがあろう室内の最初にかゝげられた全國四Hクラブの徽章（四つ葉のクローバの各葉Hが入つてるもの）はクラブの誓詞である處の頭(Head)心(Hart)両手(Hands)及び健康(Health)の發達を表はしたものである

交換分合を着手しよう

汗がみな　みのる農地の集團化

元本村におられた仲田先生も、説明係としてこゝにおられて、理想竈の圖解説に其の他生活改善の普及指導に奮闘されている。この室を出ると休憩所だ、老若男女の中に混じつてお茶を飲みながら、一青年の感想を聞く「例年より内容が非常に充實している。特に會場の作り方や説明が良い。又展示會が何時もより系統的に並べてあつた様に思われる。しかし、この中學校と云う場所は不便過ぎてこゝ迄上つて来るのにもう疲れてしまう。この程度のものは試驗場内で行える様に試驗場の設備を行うべきですね」と云うこの様な意見は觀客の誰しもが考えることであろう。

よりよき農業經營をこの研究意欲に、もえたぎる頼のもしい見學の人の群が、後から〳〵ここゝえ集つて来る。こうしてゐる間に初秋の太陽が西にかたむいて来た。

渡り廊下を別棟の會場へ急ぐ、果樹、蔬菜の室を見て肥料室に入る。會場も廣く内容の豊富な展示會の見學につかれてか、この室では見學の人は床にすわつて説明をきいている。壁に所せまくはられた肥料の圖表をむちで指さしながら、山口さんが説いているのは肥料の施用法

「窒素肥料は脱窒作用を予防するため還元層に鋤き込まなければならない。水田では荒代前の鋤込みがよい。石灰窒素は正常分解の際は三日から六日であるが低温とか、むらに施した場合は分解が遅れて分解の際生ずる毒素のためにいためられるから、施用から播種までの月數、施肥量、其他に充分注意しなくてはならない。低温、其の他の自然的條件はごうにもならないから危險な場合は一寸の覆土をしてまくこと。催芽播きは危險だから殊にこの注意が肝要との御説明、圖表をはつて壁がかわつて新肥料へ移る。

尿素は窒素四五％を含んだ濃厚肥料、硫酸がなく中性で窒肥としてすぐれたものである。

溶性燐肥も硫酸根がなく、肥料成分が高い。成分は柯溶性燐酸であつて、稍遅効性だけれども石灰、苦土、硅酸等の復産物をもち、アルカリ肥料であつて、過石よりもすぐれた燐酸肥料である。

必ず基肥に施すこと。

鹽安は窒素二五％で鹽素を含むため施用に注意がいるけれども大体硫安と同じ性質であることの事。新肥料は尚更のこと、今迄使つている肥料の性質を研究する余地はまだまだある。

次は病理室、一段高い處に「稲作の大敵稲熱病の勉強はこゝ」と大書してあるのが目を引く。

「柿の落果はへた虫によることが多い。これには砒酸鉛が一番きく、柿は砒素に弱いから硫酸亞鉛を入れて石灰を五倍量にした一斗式をかける。雨が多い時は石灰液の追いがけが必要だ」面を輝やかせて説く知久先生の語調は次第に熱を帯びて来る。

「病虫害は陽氣のせいではない、その處置を施さなくてはいけない。栽培法の問題は一應承知しているが、病虫害のことは勉強せずに、氣候のせいにしているが、それでは氣候が大迷惑だ。細菌や虫のえさを作る百姓では駄目だ」とは仲々辛辣だが、充分に反省を要することろ。

「病害といつても唯ボルドー液をかければよいと云うのでは駄目、胡瓜、葡萄は少石灰馬鈴薯は等量、馬鈴薯に石灰がすぎると葉が硬くなつて收量をへらす。石灰は湯でとかしてはいけない、必ず水でよく、作り方、使い方を勉強してもらいたい。梨のダニに硫ニコをやる人があるがこれはきかない。硫黄合剤三〇倍を一本へ一斗位多量に撒布すれば完全に死ぬ。テントウムシダマシは砒酸石灰をかける價も高くきかない砒酸鉛をかけるのは馬鹿な話だ。薬剤會社のお先棒かつぎの百姓は禁物」とは仲々知久先生御上手

展示會は單なる展示でなく簡潔で熱の入つた説明が非常に効果的だ、種々秋の展覽會の參考になる点が多い。

農業は徒らに手足を動かすだけでなく、廣く經済界を見透すことの出来る見識と、新しい農業知識と、技術を絶えず學んでゆかなくてはならないと、今更の様に感じながらこもれ日も薄らいだ松林の道を驛へ急いだ。

農業便り

「麦作りの指導特輯号」発行

本村農業改良委員會並に農業協同組合、農事研究會、農業經營改善委員會は食糧一割増産の掛聲高く、村の新聞麦作りの特別号を発行して農家に配る。

×

農地の合理化は？

昭和二十六年度の事だが本村が農地交換分合の指定村になつた。本年の實施は會地村他三ケ村。

×

秋肥の予約注文をごうぞ

農協では組合員の秋肥對策要望にこたえて、予約注文を取りまとめて中央の連合會より購入して、統制撤廃后の自由販賣に積極的に備へる事になつた。

一方農家のうち、消費力の多い家へは業者ノ肥料注文に廻ることもあり、ダットサン一合まとまれば飯田から庭先迄配達すると云う。統制時代とはうつて変つた狀況に肥料は買いたし金はなしと云う世ノ中になつた。参考に農協組發表の予價格を掲げる但し連合会で値引の節は差額金をお返しすると申添えて居る

硫安一〇〇㎏一〇、六％七〇円　石灰六〇㎏二、五％五円　過石三㎏四〇円　加里一〇㎏五、六％八〇円

村の歴史（四）

（中田美穂）

三、中世封建社会（續）

③、長石寺と小笠原氏

A、龍門寺曲輪と長石寺跡

伊那神社佛閣記に「龍門寺は元龜年中駄科村鈴岡城脇に開基す、後鈴岡より移す」と有るが、現在その該當の地点（念通寺傍から松が崎）は時又長石寺の建立された傳承を土地の人等が傳えてゐる。

そこで私はこの疑問を解くべく、史料を調査した。

鈴岡城には小笠原總領職の政秋が家寶の書物と代々の肖像を藏してゐたが、松尾城の定基が亂入の際にこの寶物と祖先の靈代等一切松尾城へ掠め去り、松尾城内へ歴代の位牌堂に納めたが、後城外へ龍門寺を建立して之に移したのが史實である。

然らば傳承の長石寺跡の判斷には、私が先に古代社會の項で觸れて置いた『三代實錄』の觀音寺に關聯してみたい。

駄科御所山は大和、奈良時代に強大な權力者が居て、之を中心にして念地、前林、松が崎（前が崎か）等には塔堂伽藍が立ち並んでゐた時代があり、延喜の官道もこの附近を通行したようだ。

聖武天皇天平五年觀音の利生を御感――觀音寺建立を命じ、勅願の靈場とした――造佛司を置いた――等の國史と信洲伊那郡觀音寺を天台別院と爲す――元慶五年十月十七日――等三代實錄の所載事項養老年間に僧行基作觀音像を本像に一宇の造寺をすると言う長石寺の緣起記とを綜合してみれば、必ずやこの所に建てられた寺院佛堂が國史や傳說の基礎になつたものに相違ない。

この時代が過ぎて御所山の豪壯な後所も近傍の寺々も消失したが、その中の觀音像が僧行基の開いた時俊の休船處の堂宇に納められたのが長石寺開基であろう。駄科、桐林共に御所山の近傍に長石寺貢米の經田が現存して居る。

鄉人の称える長石寺跡は『長石寺はこの邊に在つたものらしい』相像が生んだ傳承である。長石寺の寺名が出來たのはこの頃から七百年――千年の後の戰國時代の正嘉元年の事である。

B、緣起の傳承

天平五年聖武天皇勅命で時又建立の際、諸山の良材を天龍川に流下の際、大洪水が出て此の材木は一夜の中に敷地に上つてゐた――傳說は誤りが多い。これは觀音の利生を過大にした緣起說で、天龍川の交通は僧行基の休船處設定もあるように、古くから利用されて、木材は川下したもので、時又は港として發展したが、具体的に國史に現われたのは吉野時代（貞和年間）に飯田の松川入から京都の日蓮寺の時又移轉の傳說とも合致する。

社寺局調査長石寺記には建久二年三月小笠原長清造立、開山石海法印で長清居城の松尾山を稱し、長清石海の頭文字を取りジ号とする――とあるが、長清は其のころは舊記によると『長清伴野庄より伊賀良庄に移りてしのを城を築く』とあり、現在の北方殿岡の邊にゐて、松尾城を作つて移つたのは其の孫長忠であつたから、社ジ局調査も誤りがある。

比較的に信頼してもよい「伊那志略」にさえも

在時俟眞言宗号松尾山、隷南原文永ジ、長清信仰之、承久之戰祈之有驗、長政正嘉元年草創堂宇

と有つて、文永年間に建立した南原文永ジに、それより十年以前に開山された長石ジが所屬してゐたと云う大きな誤謬を記してある。

C、ジ名と山号

そこでこれらの誤謬や相違を省略して、私たちが合理的に納得できるように綜合する時又に在る觀音ジは天平の昔に聖武天皇の勅命で建てた御所山附近の觀音ジの行基菩薩の作る木造觀音像を本尊としてゐたが、行基開始の休船處（港）のジ堂で名もなく小さいものであつた。

始め小笠原長清は此の觀音を信仰して、承久の戰いに出陣し利生効驗あらたかで多大な戰功を立てたから、曾孫長政は、正嘉元年に本堂外十二坊（一乘院、慈敬ジ、清井、高野、畠中、西中、垣外、千発起、松本、室井の諸房、護摩堂）を建て、其の居城の名をとり松尾山と号し、長政の頭文字と開山石海法師の頭文字とを合せて長石ジと名付けた。眞言宗高野山に隷屬した亦ジ領の土地は時又全域に亘り、尙緣故の地に貢米の經田を附與された。

かくて長石ジの結構な建築廣大な境内で晝夜勤行の讀經鉦絶えることなく、賑やかな靈場になつたが、其の間三百年で天正十年織田の大軍が伊那攻略の際に兵火の襲うところとなつて遂に昔日の俤を失ない、又松尾城主信嶺の武州本庄に移封で順次衰微の狀態になつた。

④、開善ジと南朝哀話

A、開善ジの創建

建武二年（紀元一九九五年約六二〇年前）御醍醐天皇の聖旨を体して小笠原貞宗（長清より六代目の信濃守護）の創建に依る。開山は大鑑禪師で、開山式の法語に言う。

「欽んで聖旨を奉じ兼ねて開善ジに住持して――皇帝萬々歲を祝し奉る――今日皇帝以施し山僧に命じて梵刹を建造せしむ――樓殿重々法界參るしと開善ジとの因緣の深いことは、伊賀良庄地頭は小笠原長清以來の世襲で、當時後醍醐天皇の御領になつてゐた。貞宗は其の關係で禁中に出入し、後醍醐天皇に弓馬の術を師範してゐたが、貞宗の馬術の秘術には天皇も殊の外感心されたという。

B、秀れた文化財

開善寺附近は古墳や石器時代の遺物で示すように往古から文化の進んでゐた土地であることは（現在私たちが見ても南面した段丘の上に久米、確井の水利よく、道路は延喜以來四方に通じていて）想像できる。

地の理よく人の和良くて、連綿七百年の星霜を經て其の伽藍は昔日のまゝに傳えて、今日では一山のジ寶も許多藏し、國寶として貴重な文化財に指定されたのは。

○山門

俗に左甚五郎一挺楔の門と言われ、鬪棋も虹梁も大瓶束も共に見事で鎌倉末期の樣式を表現してゐる。

○鐘樓

こゝの鐘は天正十年織田勢が武田攻めの時に引きずつてゆき、高遠攻撃に用い、そのまゝ高遠町の桂泉院に現存してゐるが、この鐘の高三尺六寸三分、口經二尺五寸六分、撞坐の蓮花紋は鎌倉時代作を表わし、銘文に文和四年第二世中山清閣の時に鑄たとある

○特にその他の貴重なものとして記したいのは

○銅製画文帶四尊四獸鏡

○十一面觀音像

○雲板

C、南風競わぬ哀史

嚴子女王

ごだいご帝の七女で正和二年嵯峨に產れ、母は信濃藤澤城の基親の女、京都の亂を避けて當地に移り、川路の花御所に住居、南朝振わず失意のまゝごだいご帝の崩御をきゝ無常を感じて曆應二年開善ジに入り落飾し、父君天皇の菩堤を吊い乍ら八十二才で（應永二年）薨去し、境内に墓を現存する。

尹良親王

古本帝系圖にこれの名前が無いので、史的存在に疑問を抱かれてゐるが、松尾小笠原氏の氏神社の八幡社及び伊豆木小笠原の氏神の八幡社に尹良親王社あり、浪合の浪合神社がある点からみて信濃宮の子として實在された事は實際である。

應永三十一年、大河原から三河へ渡ろうとして、此の近傍を通過の際、小笠原氏の一黨の者で飯田太郎、駒場小治郎、伊那圖書之助に追われ親王勢は奮戰し、家來の臼井七郎獨り居殘り、一行は浪合へ落ちて行つた。殘つて賊軍と合戰の臼井七郎は此處で討死を遂げた。後年鄉人がこの戰鬪の地を合戰洞と名付け開田したが、不作であつたり耕作者の家に不幸が續いたのでケチ田として恐れたが、これは臼井七郎の祟りと信じその靈を慰めるために田の畦に『臼井七郎之墓』の石碑を立てゝ祀つた。現在の臼井の地名もかくて起り、其の石碑も三日市場の某家にケチ田から移して住家近くに置き、供養を怠らないという。

D、信玄と信長

信玄は新たに攻め入ると其の土地の神社佛閣を先づ占據して、地元民に祈誓文を書かせる。若し反旗をひるがえすと其の罪によつて討伐するといふ宜撫手段を用いた。

然し信長は其の反對だつた開善ジも織田軍に燒かれた。

原稿募集

一、記事、私達の言葉（云い度い事をもの申す）ウソニュース（本當のようなウソが世の中に多いから）

一、文藝（詩、短歌、俳句、漢詩）

一、生活雜記

一、期日（毎月十五日）

一、用紙成可く原稿紙

一、採否は一任され度い

一、紙上變名でも差支へありません。

宛先　館長又は主事

情報部員

長野原と水利

（長野原一青年）

東は天龍川、西は新川の中間に位し、赤石山脈と惠那山を遙か望む、面積約四十町歩戸數約六十戸、地味豐かにして暮し好い所ではあるが水の少いのが昔から惱みの種であつた。長野原の水掛行事について書いて見たい、田植後秋の彼岸迄、朝水二番三番七ツと云う水番があり。日には幾度も上る。朝水と云うのは午前三時頃起き伊賀良村北方村社裏名古熊井口迄行腰丈迄川へ入り井口をせぐ。往復約三時間半、此の水引に就ては種々の規則がある。昔は当區に於てもあまり、水の不便を來さなかつたが、上流に人家が增へ飲用水、田圃の擴張等に付不便を來たす樣になつた。

此の水掛は昔から同じ事を繰返し、現在の時勢にはそわない非文化的な行事である。其の后の龍西一貫水路の問題はどうであろうか。此の伊賀良井は今から三百餘年前、時の飯田城主脇坂淡路守安元（元和三年今から三百三十三年前伊豫の大洲より來り上伊那の一部を合せ五万石を領し二代安吉に至り、五十餘年の寛文十二年を以つて堀氏に替つた）の當時出來た。

駄科から長野原間の水路は長い土堤を築き、非常に苦心した。

脇坂公は約五十年間飯田城に居城し地方の產業に貢獻した。

名君であつた。伊賀良井の出來る前には駄科や長野原では新川の水で生活をしていた。念遥寺の裏から引いて居た。

新川の段丘崖の上を通り長野原御殿塚の邊から金山神社の附近を通つて長石寺の用水となる。

昔は德川幕府の敷いた所謂封代官庄屋、村役人、庄屋、百姓役之助、長政殿、組頭、庄屋、村政治を司る家は庄屋に三役を云い村内の庄屋を務め居た。庄屋を云い、代々庄屋を務め居た。明治維新に依り封建政度は廢止された。長野原の昔は一面草木生い繁つた草原であつた。それを吾々の祖先が粒々辛苦して作つた。

春の三月二十八日の金山神社祭典草餅はそれに因んで作つた。終戰後村民一般の祭典である。

敬神崇祖の念を以つて吾々は對する。

宗教的觀念がそうした立場から雰圍氣が薄いだけの樣である。

史を槍ふ挙つて神社の境内に參拜し立ちは一本の大杉の物語つて居る。

私達の言葉

【回章を早く廻しませう】

農協や役場のいろ〳〵申込をせねばならぬ回章や、通知が期日一杯に來たり、過ぎて來たりして非常に困りますから回章をごこのお家でも早く廻していただき度いと思ひます。

（一主婦）

【保健婦はどうしたのか】

春ごろからこの村に保健婦さんが居なくなつた樣子ですが、ごこの村でも居る保健婦さんがこの村ではどうして居ないのでせうか。必要がないのでせうか。たのむどしたら良い方を御願いして下さい。

（弱い一村民）

ウソニュース

（下平生）

赤追放

先の閣議で赤追放を決議したので農林省では入參、トマト、赤カブ、赤コショウ等の作付禁止を立案中。

三十八度線

（KS生）

太郎作は自分の寺畑を見廻つた處、北隣地の耕作者が境界線を越えて約一米芋つるが越境して來たのを發見、國際連合に提訴したいと役場へ申込んで來た。

（天一坊）

○ヒステリー

台風には凡て男性名を附ける事に変更した。

○美術の秋

あゝ秋は余りにも淋しい。せめて展覽會は春に願ひ度い

落選者クラブ

○発覺を恐る

文書僞造、サギ、横領などに熟練した有爲の人材を募る。

木曾税務署

○ストリップ狂時代

秋の運動會にはシャツもパンツも使用しない女子が多數有つた。

村内こぼれ話

×

いよ〳〵さり入の秋が來た黄に熟れた田の面を見ると、一年間の雨や、風や、水を案じ乍らとも角も作りあげた農業の喜びさたのしみは眞に農民ならでは味い得ぬものであろう。或る農業團体関係の友人が來村して、共に田甫道を歩いた時、稻作りの割合良いのに驚ろいて居た。

本年愛知縣の稻橋試驗場へ出掛けた人々は何人になるであろうか。

さに角多くの人が百性に非常に熱心になつた。そして一人の篤農家の周圍が自然に農事改良されて行く狀況は失禮だが一技術員では無し得ぬ体驗の持つ强さと尊さとあろう

零細農が行當つた土地の高度集約經營の上に、更に農業がごう改善されねばならぬかを若い人達が卒先して着手しても良いのではなかろうか。

×

川路の天龍峽附近と八幡を歩くとごん〳〵家が建つて增へて行くが本村は減る一方だとは一寸さみしい話だと一村人が語つて居た。

何故か、原因をいろ〳〵の角度から研究して見る必要がありそうだ。

×

或る会議の席で學校兒童の給食味噌汁が問題にされた。朝夕味噌汁と漬物を常食とする村内九〇％の家庭の子供に晝食にも味噌汁を出す事はもつと研究の余地があるではないかと云ふ事である。

×

本村のラジオは六二五に達し、九七七世帶に對すると六四％の割合。川路の五六一世帶に五二三台のラジオがあつて九二％に比べると未だ少い

×

桐林の八幡社の構造や社寶の一部が非常に歴史的に貴重なものである事が先頃の市村咸人先生の調査で立証せられた。中田氏が種々骨折つて世の中へ出したのが村内に埋もれて居る寶物や文書を本当に充分調査して先祖の遺產を保存したいものだと要望の聲がある。

歸郷

商大學生　木下修次

自然の明るみが著しく増して、武藏野は綠にうずもれほとゝぎすの血の叫び初夏の威力の力強い無言の響があたりに充滿して來ると、そろ〳〵學生連の間には夏休みの話題が賑はつてくる。

夕陽さびれて校庭幽か深い自然のいきさしを感じ、灰色生活に倦み疲れた頭をもたげる時、學窓遙か聞く汽笛の音に早や私達の心は鄕里に飛び山に走るのである。そして唯故鄕を想ふこと丈でも一種の和やかな感じの浮ぶことを覺える。

校庭の芝生に寢轉がつて豊かな自然の包容力を感じつゝ

A「『男兒志を立てゝ鄕關を出ず』か、遂に一學期もたんたんとして過したな―將に兎鳥匆々の感」

B「君達はいゝよ歸省の喜びがあるから、俺達はこの夏も相変らずの都會住ひだ、田舍つていゝだらうな―」

A「だけど君達こそ、毎日親元から通學出來て幸せじやないか」

B「いややつぱりね、毎日一緒に居ると餘り感じないものさ。唯都會の憂鬱だけだよ」

A「然し君、田舍にも田園の憂鬱と言ふのがある。あの根強い農村の封建性は個人の自由な活動を重たい空氣で壓迫し、村人相互の干渉と、感情のもつれが綱の目の様に擴がつて居るんだ、そして誰もが、個性の萎縮と主体性の喪失に惱んでゐる」

B「そうだ自然の恩惠を滿喫する代りに限られた狹い視野にあんそくする嫌ひがあるだらう。文化の創造する利も害も何時迄も一處に停滯してゐる爲勢ひ『臭氣清からず』と云ふこころかな」

A「都會に見られる樣な社會人としての文明的流動性と云つたものがない譯だ、つまり老青年層間に世代のギャツプがあつて社會感覺が違つてゐるんだ、だが一方それ文青年層が芽を吹いて居ることも言へる。實際知識慾に燃えて積極性のある先輩や友達が多いからな―」

B「農村特有の排他的觀念や因襲性への克服は目覺ましいやうだね、心強い限りだ」

A「現下に於ては、この迫り來る農村恐慌を救はなければどうにもならんよ。このまゝでは農村文明も勞働の自由も日暮れて道遠しだ」

B「まあ事實經濟史觀の世の中だからな。陶爰明ではないが『歸りなんいざ！田園まさに荒れんとす』か」

しのび寄る黃昏に地平線は今くつきりと夕映えてゐた。

七月の中頃から私は暫くの間、鄕里の人となり溫い母情にひたつた。殘雪を載いた立山連山の雄偉な限空線を見、田の畔に夕暮寂しい音を立てゝ居る虫の音も聞いた。又過去一切の想い出を縫合してゐる土の香いもかぎ、そして烈しく生命を燃燒させて大地に微笑む鄕の人々には何時も乍ら驚異と畏敬の念で一杯にならざるを得ず、その聲々として歌ひ乍ら自力更生の円いに育くまれる詩的情緒にも魅せられるのである。そして都會でみる武藏野の農村風情をも比較してみた。

そこでは私が常に異樣な感じを抱くのは、郊外を散歩してゐる時、嘗て唄の聲を農夫の口から聞いたことが無いのである。田園に歌のないことは田園に一つの固定した感情がない証據である。それは何時も農夫の心に動搖があつて農事に携はつてゐるのはほんの一時だと云ふ事を物語つてゐる。そこには安住の感情がなく、絶えず押寄せて來る都會の波の爲に田園がそれ自身の獨立性を持たない証據であり、都会の延長され過ぎてゐるしるしである。

顧つて、國際環境も講和は遠くのネオンの樣に消えたりまたゝいたりするばかり、そこに起つた朝鮮の事件は日本の運命に地鳴の樣に薄氣味惡く響いてゐる。平和と繁榮の道に勵しむ我が農村に嚴しい試錬はあつても動亂の障害はない樣に、ジグザグの上り坂を昇りつめて、さて前途に望見するものは綠の地平線か、いばらの荒野か。

（以上）

小學生の作品

『夏』（夏休の日記帳から）

五東　市瀨昭子

(一) 朝

日が昇りかけた晴れた朝
日光が風と一しよに
さしこんだ
部屋中一どに明るくなつた
すゞしい中に
さあすゞしい中に
勉强しよう

(二) 雲

みどりの山のその上に
今日もわきでた白い雲
いつもわきでる
白い雲
麦わらぼうのやぶれから
白いあたまがみえました

(三) ぶどう

タネからたれた
ぶどうづる
色みがけた
葉と葉の間から
にゆつくりとでゝいる
ぶどうのつるが
水につきそうだ

(四) 夕方（かげぼうし）

長い長いかげぼうし
むこうの田んぼのそばの道
わたしの頭がうつつてる

× × ×

五西　山田幸子

つばめとぶ
入道雲の
あたまかな

公民館の歌

一、平和の春に新しく
郷土を興すよろこびも
公民館のつどいから
さけあう心なごやかに
自由の朝をたゝえよう

二、心の花の匂やかに
郷土にひらくゆかしさも
公民館のつどいから
希望を胸に美しく
文化の泉くみさろう

三、働くものゝ安らかに
郷土に生きるたのしさも
公民館のつどいから
まどいになどむひとときも
明日への力そだてよう

五年目に竜丘を訪れて

東京守山中學校生徒

八月十九日

二十三時四十五分発　長野行

この列車が五年振りに我々を開善寺へと運んでくれるのである。七時頃からホームへ集合し始め、九時頃には白岩君を除いて全部出揃つた。一行は森田先生、神山先生、修ちやん、玉置、知坂、白岩、木梨、河野、田部、染谷、田邊、遠藤、小作、山口、以上の十五名に長清寺を訪れる細野晴夫君が行を共にしている。

八月二十日

七時十九分辰野に着き、連絡が急なので走るように飯田線に乘るが座席はとれない、相変らずのオンボロ電車である伊那町あたりから再び雨が降り始める。赤穗あたりで皆大体座席をとつた。左手の天龍川が懐しい。飯田を過ぎる。懐しい景色が見えてくる。切石、鼎、下山村、伊那八幡、毛賀、駄科、遂に時又に着くホーム内に法丈樣がシャツ、ヅボン姿で立つていられる。昔のお顏である。ホームを出ると久保田先生、湧井のおばさん、配給所の加藤さん、仲田先生の妹さん、俊ちやん、懐しい顏ばかり。皆口々に大きくおなりたな――「ちよつとも分らん」の連発である。

道も、家も、坂の上からの天龍の見晴らしも、私達が始めてこの地に着いた時と全然變らない。

歩いて行く内に段々記憶がはつきりして來る。東京のごみ〳〵した景色とちがつて雄大である。清水の湧いている坂を上る。

開善寺の屋根が見え出した正門から入る。山門、鐘廊、玄関、皆生れて始めて眞の感概無量の氣持を味わつたであろう。

方丈樣の奥樣に迎へられて入つた。奥樣はをしとやかな誠にこのお寺にしつとりとした方である。書院で挨拶をする。書院には疎開中白岩君たちが本堂の前の松の木に登り鳥をとつた時の繪が表裝してかゝつている。この學童獲鳥圖を見て話題ははずんだ。

湧井のおばさんは天ぷらを重箱に一杯つめて持つてきて下さつた。法丈樣の子供も今井君を始め俊二、實、良雄、吉川、長谷部、彌生、きみの八人になつて賑やかである。皆本堂でごゆつくりおやすみなさいと法丈樣がいはれるのに、皆僕はこゝへ寢たんだと子供の樣に騒いでいる。

天龍川へ泳ぎに行く人もいる。夕方仲田先生、現在は二人の子持、關島文子さんがお土産を持つていらつしやつた眼鏡は取られたが、ちつともお変りなく元氣でいらつしやる。お寺で変つたことは鐘がついたこと（二十五萬円）元小學校にあつた奉安殿を移して忠魂塔とした事等である。夕食後皆お風呂に入れてもらつてねた。

二十一日

思い出の本堂に第一夜を結んだ僕達は、二十日にする筈であつた挨拶廻りをしようと思い、朝食が済むと直ぐお辨當を持つて、小雨ハ中を番傘を持つて出かけた。

配給所の加藤さん、岡島先生（先生は川崎へお嫁に入らした）北原醫院、役場を廻つて學校へ行つた。運動場は廣くなり、バツクネツト迄ある我々がいた当時の職員は小使のおぢいさんを除いて一人もおられないそうだ。この地方の教員の人事交流の激しいのにおどろいた。小學校長は和泉先生といはれ、中學校長は竹上先生といはれる。一昨年守山小學校を訪問された先生方に案内されて記念館でお辨当を頂いた。この時何か思ひ出に野球の試合でもしようといふことになり、体育の先生に申し込み皆の意氣が上つたしかし練習を始めた頃から雨が降り出しおジヤンになつたといつたら森田先生が「五年後には一升びん下げて集りませう」と座を賑した。その中に乘りおくれていらつしやれなかつた、木下校長先生が自轉車でかけつけられ又座が賑つた。誰が提案をさつたか忘れたが、皆大きくなつたので一應改める事になり、思い出話を兼ねた自己紹介をしようといふ事になつた。

お客樣から始める事になり一番筆頭の關島助役から始まつた。配給所の加藤さん、塚平善一さん（お酒呑みで村一番聲が大きいそうだ）老いて益々元氣の清水さん、竜丘の學校からゞこかの學校へうつられた木下富士先生、竜丘中學校の川井先生、宮川先生、櫛原先生、松尾先生、渡邊先生（以上は一昨年守山小學校にいらして下さつた方）僕達が竜丘で勉强していた頃の本間先生、岡村先生、湧井のおじさんおばさん、今村のおばさん、この三人は今度もずつと台所をして下さつているのである。法丈樣が台所へ行くと又疎開が始まつたかなの錯角を起すと皆を笑はした。久保田先生も滯在中殆ど毎日こられて炊事を手傳はれた。生徒側の自己紹介（思ひ出話を一つ含む）がすみ。最後に校長先生と法丈樣が思ひ出話しをなされて十一時頃會は終つた。塚平さんと加藤さんは「このお禮に明日のお晝に村中で皆に絶對忘れられないような甘いおはぎを食はしてやる」と約束なさつた。清水さんは「今度皆が来る時は地下鐵だて」といつて皆を笑はした。この宴會は訪問中一番面白く且意義のあつた事ではないかと思ふ。書き忘れたが關島助役の挨拶に「かくも人情輕薄の世の中に皆さんが昔の恩義を忘れずに開善寺を訪問すると聞いて、何だか嬉しいものを感じた」といはれた事が忘られなかつた。夜皆與雷して寢つかれなかつた樣であつた。

讀書の秋圖書館を利用しませう

我軍には女の人が二人入るつもりであり、皆張り切つていた爲、殘念であつた。

この爲雨天体操場でバスケツトボールを皆でやつた。二時間位、疲れるのを忘れてやつた。山口さんは本格的なので皆壓倒された。四時前に學校を出発し駄科の前村長宅へ向つた。道程が遠く又バスケツトをやつた爲皆疲れたようであつた。前以つて通知してあつた爲非常に歡待され、淺草の小學生のお孫さんも交へて電車の時間迄ゆつくり寛いだ

歸へりには元上川路の區長であつた益田さんを訪れた、役場で關島助役に小學生呼ばはりされた田邊は、こゝでも「あの坊さは良く覺えてる。ちよつとも変らんでな」と連発されしよげていた。

歸へつたらもう五時半で四時に招待したお客樣も相當見えられ、又四時にきてくれと頼んでいた川路の寫眞屋さんも待つていた。早速寫眞をとる。お客さんも出揃ひ御馳走もならんだので皆書院に集まる。中で寫眞を取ろうと云ふのである。四十何人が整列して待つているのに女の人達はのんびりお風呂に入つているのには皆弱つた。法丈樣の挨拶、助役さんの挨拶、知坂の挨拶があつて食事は始つた。この御馳走は皆お寺で出して下つたのである。寫眞にあるお銚子は僕達は目で見るだけである。田邊が一杯呑みたい

編輯後記

九月二十日午后三時より役場にて編輯会議を開く、各村の館報、村報を讀み比べて感想を語りつゝ本月の編輯方針を討議する。段々良くしたい。部員は村民のいろ〳〵の聲、聲なき聲を察し乍ら今后の内容を向上する樣に務めたい。

＊本月は地方税の改正に併ふ村税の解説「附錄」が役場の關係者の努力で出來る、どうか内容を讀んで村民の集ひで充分質疑を出し研究され度い。

＊龍共社印刷所がいよ〳〵時又を去つて飯田へ轉ずる事になり。印刷を世話になつて居る關係上一寸さみしい。全社の發展の爲ならやむを得ないなが竜丘に育ち、時又で發展した事から考へると尙一層村へ留つてむらい度かつた。全社の村民へ對する御挨拶を載せたが今后の發展を祈り度い。

＊訪問記の目標を本月は、農事試驗場分場二十五週年記念の展示會を祝つて何か村人に參考になる樣な記事をのせたいと云う事になつた。擔當は分場を木下、伊原、市田中學校の分を岡村、高島、各豆記者が分擔執筆した。

＊今村清氏の靖廣のユーモレスクは誌面の都合で休載。

＊疎開の學童が村へ五ケ年目に來て嬉しい物語の感想は全文を載せる事が出來ず次號へ。

＊時又中平氏、農協嶽野氏その他數名の方の原稿が誌面の都合で掲載出來ないお詫び迄。

御挨拶

今回事社機業務上の都合に依り飯田市へ移轉を致すことになりました。

創業以來十五年印刷業に於きまして當業中は皆様の絶大なる御引立を賜り、向上の道をたどることが出來ました。

厚く御禮を申述まします。

當業場は飯田市に移りまして本村は出生地、後も今一層の密接なるふるさとの地、戴係を持たせて戴く御願申上ます。

立て賜り度く御願申上ます。

尙現在の時又當業所の方でも承ります故御用命の程御願申上ます。

御立寄御休息下さいます様御待ちいたして居ります。略儀乍ら紙上をもつて御挨拶をさせていただきます。

移轉先は　飯田市傳馬町一丁目
電話（飯田）九六一番

龍共印刷株式會社